

栗てまり露地抑制栽培について

北海道産の出荷が終了し、輸入品が流通する端境期に国産のカボチャを出荷する作型として、抑制カボチャ栽培に取り組み産地が増加しています。抑制栽培は播種から生育時期が高温で徒長しやすく、雌花分化が抑制されやすい作型です。そのため、草勢の強さと雌花数が多い品種を選ぶことが重要です。当社の「栗てまり」は雌花が多く、安定した着果が期待できるおすすめ品種です。

1. 栽培スケジュール（例）

| 項目 | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | | 10月 | | | 11月 | | |
|----|----|---|---|-----|---|---|----|---|---|-------|---|---|-------|---|---|
| | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 | 上 | 中 | 下 |
| 作型 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作業 | 準備 | | | 播種* | | | 定植 | | | 開花 | | | 収穫 | | |
| | | | | | | | 追肥 | | | 病害虫防除 | | | 追熟・出荷 | | |

| 作型 | 播種 | 定植 | 収穫 |
|------|-------|-----------|--------|
| 一般地： | 7月中下旬 | 播種後 | 10月下旬 |
| 暖地： | 8月上中旬 | 10日~14日前後 | 11月上中旬 |

2. 圃場準備

- 基肥は全層に散布し、緩効性肥料や堆肥を利用して生育後半まで有効な施肥管理を行うことが望ましい（樹ボケ防止）。
- ゲリラ豪雨等、降雨が多く予想されるため、水はけが悪いと思われる圃場では高畝や暗渠整備等を行い、排水を良くしておくことが望ましい。また、播種、定植時期は高温による圃場の乾燥も発生しやすいため、灌水設備が利用しやすい圃場が適当。
- マルチはアブラムシ対策及び地温抑制のために白黒マルチやシルバーマルチを利用する。
- マルチは適度に土壌が水分を保持している際に張り、定植時に乾燥しすぎないように注意する。
- アブラムシ対策として、直播の場合や、定植後 2-3 週間は防虫ネットをトンネル状に被覆するのも効果的。

3. 播種および定植

- 播種は育苗する場合、9cm 程度のポリポットを利用し、本葉 2.5 枚程度まで、もしくは 72 穴セルトレイを利用して本葉 1.5 枚程度まで育苗する。
- 徒長苗対策のため、鬮根 242 の利用を推奨する。
- 播種時期が高温でアブラムシ等の活動が活発なため、防除を早めに行う。
- 定植後は必ず植穴灌水を行い、活着を促進させる。

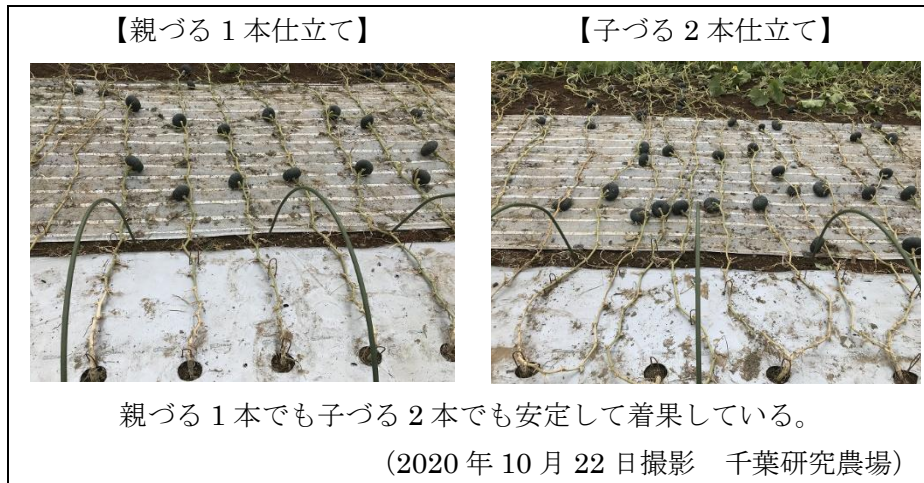
4. 栽培管理

- つるの仕立ては基本的に親づる 1 本とし、暖地は子づる 2 本仕立てでも良い。

《栽植密度（例）》

| 仕立て方 | 株間 | 畝間 | 栽植密度 |
|---------|---------|---------|---------------|
| 親づる 1 本 | 35-40cm | 3.5m 程度 | 700-800 株/10a |
| 子づる 2 本 | 70-80cm | | 350-400 株/10a |

- 暖地では、果揃いをより揃えたい場合は子づる 2 本、収穫まで早く取りたい場合は親づる 1 本が望ましい。暖地でも播種が遅れた場合、子づる 2 本仕立てでは樹勢が保てず、十分に肥大しない恐れがあるため、親づる 1 本を推奨する。
- 第一着果節位まで整枝し、以降は樹勢維持、倒伏防止のため放任とする。
- 追肥は着果から 1 週間後を目安に行う。
- 栽培初期からアブラムシによるウイルス病、生育後半はうどんこ病に特に注意が必要となるため、徹底的な防除を心がける。



5. 収穫・貯蔵

- 収穫は開花後 45~50 日を目安に行う。生育後半の温度が低下し、春播き栽培以上に圃場で管理する期間が長くなるが多いため、果梗部のコルク化などを確認しながら収穫する。
- 収穫後は遮光した風通しの良い場所に保存し、2 週間程度キュアリング・貯蔵する。
- 貯蔵性高く、出荷時期を調整しやすい。栽培時期によってはハロウィン～冬至まで出荷が可能。

